

学校におけるがん教育の考え方・進め方



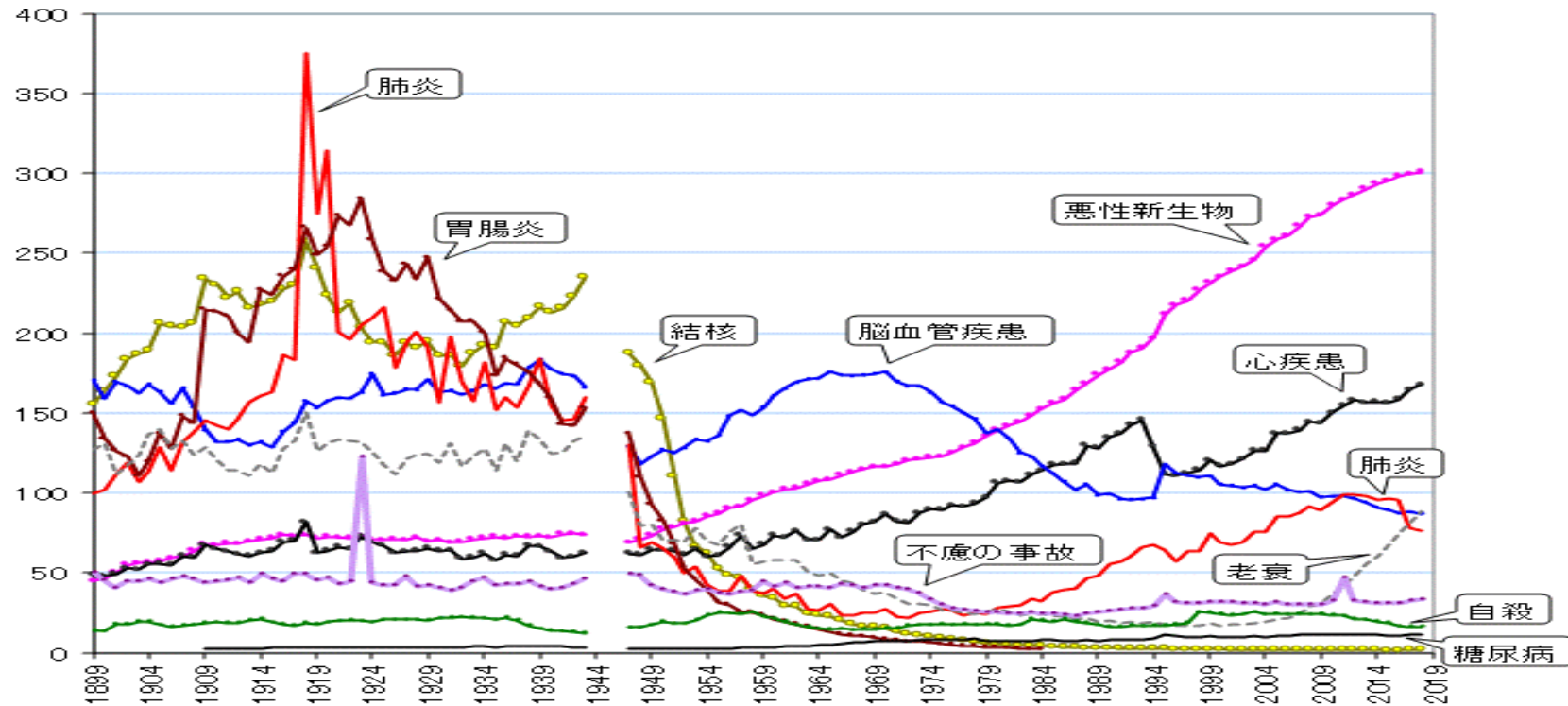
植田誠治（聖心女子大学現代教養学部教育学科）

なぜ今がん教育なのか？

- ・我が国において、がんは、1981年より死因の第1位である
- ・今日では約2人に1人が、がん罹患すると推計されている

国立がん研究センター2023年データによる
男性61.1%（2人に1人）
女性50.1%（2人に1人）

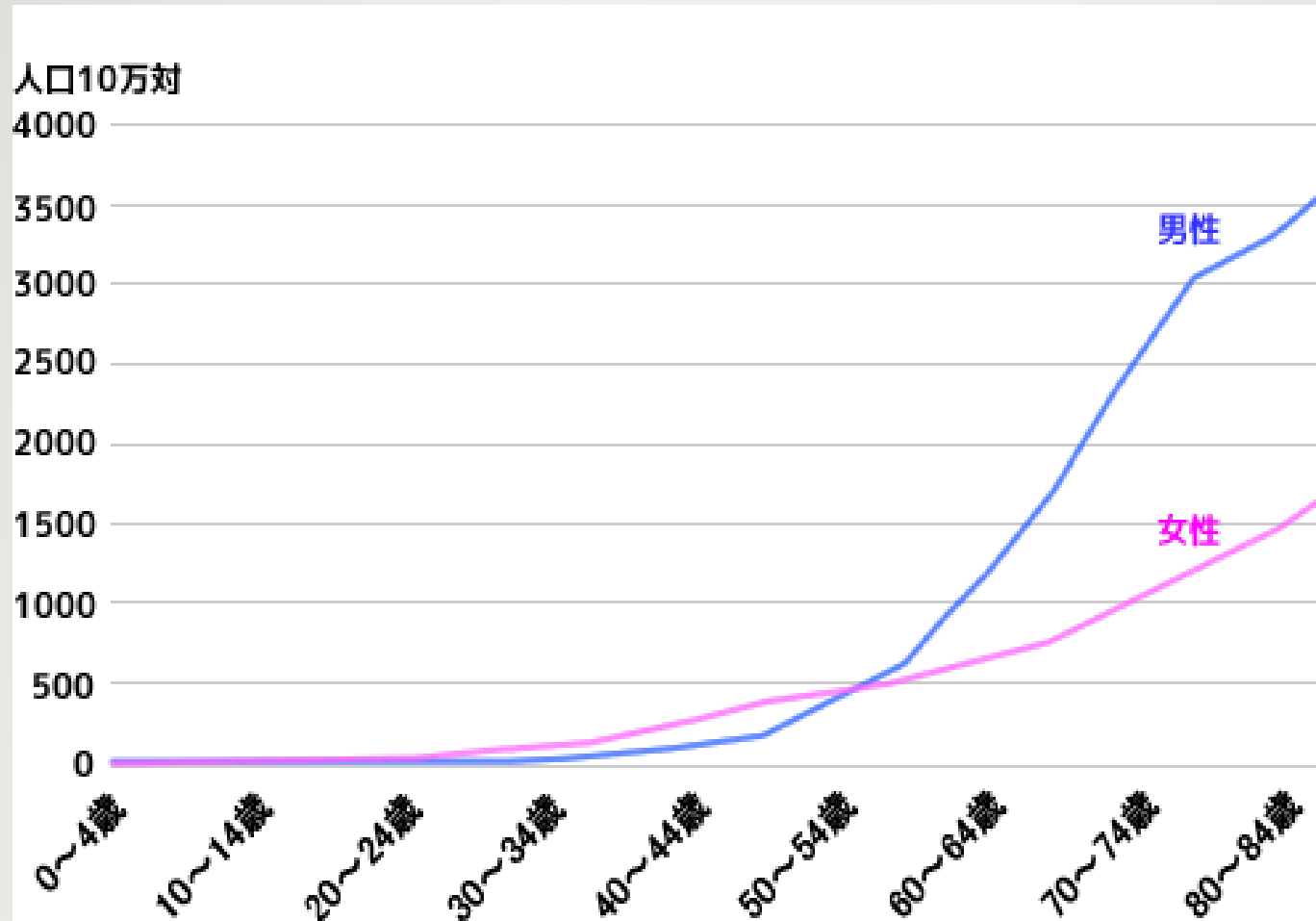
主要死因別死亡率（人口10万人対）の長期推移（1899年～2018年）



（注）1994年の心疾患の減少は、新しい死亡診断書（死体検案書）（1995年1月1日施行）における「死亡の原因欄」には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。」という注意書きの事前周知の影響によるものと考えられる。2017年の「肺炎」の低下の主な要因は、ICD-10（2013年版）（平成29年1月適用）による原死因選択ルールの特長によるものと考えられる。最新年は概数

（資料）厚生労働省「人口動態統計」

年齢階級別のがん発症率の変化（がん対策情報センターより）

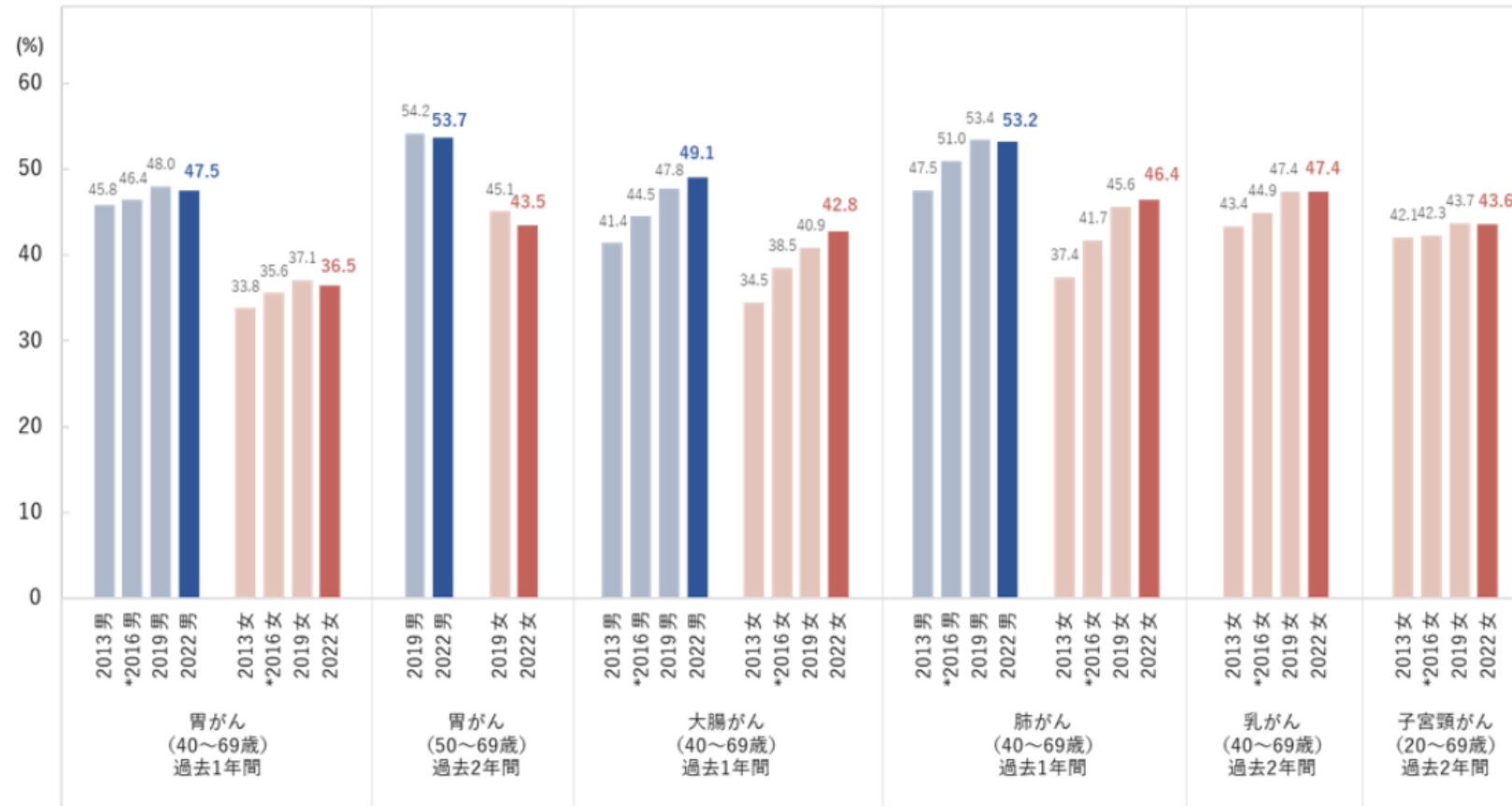


年齢が高くなるほどがんになる確率が高くなることがわかっている。日本では年齢の高い人が増えていることにより、がんにかかる可能性が高くなってきている。

・がん検診率の低さが指摘されている

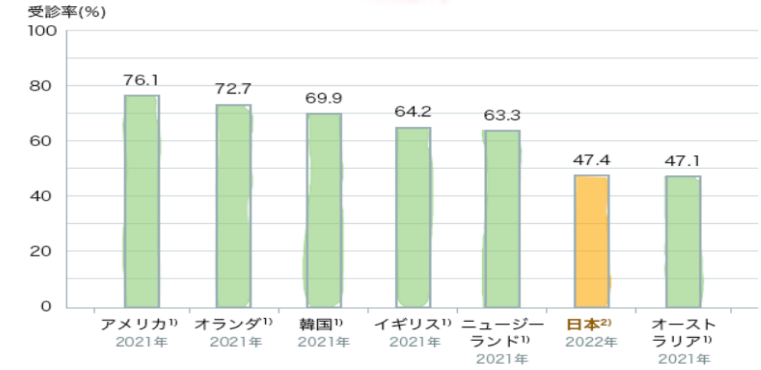
男女別 がん検診受診率の推移

国民生活基礎調査より



*2016年は熊本県を含まない

乳がん



※50～69歳の乳がん検診受診率を比較 (日本のみ40～69歳)

子宮頸がん



※20～69歳の子宮頸がん検診受診率を比較

(内閣府、2012)

多くの人のがん検診を受けないのはなぜだと思うか

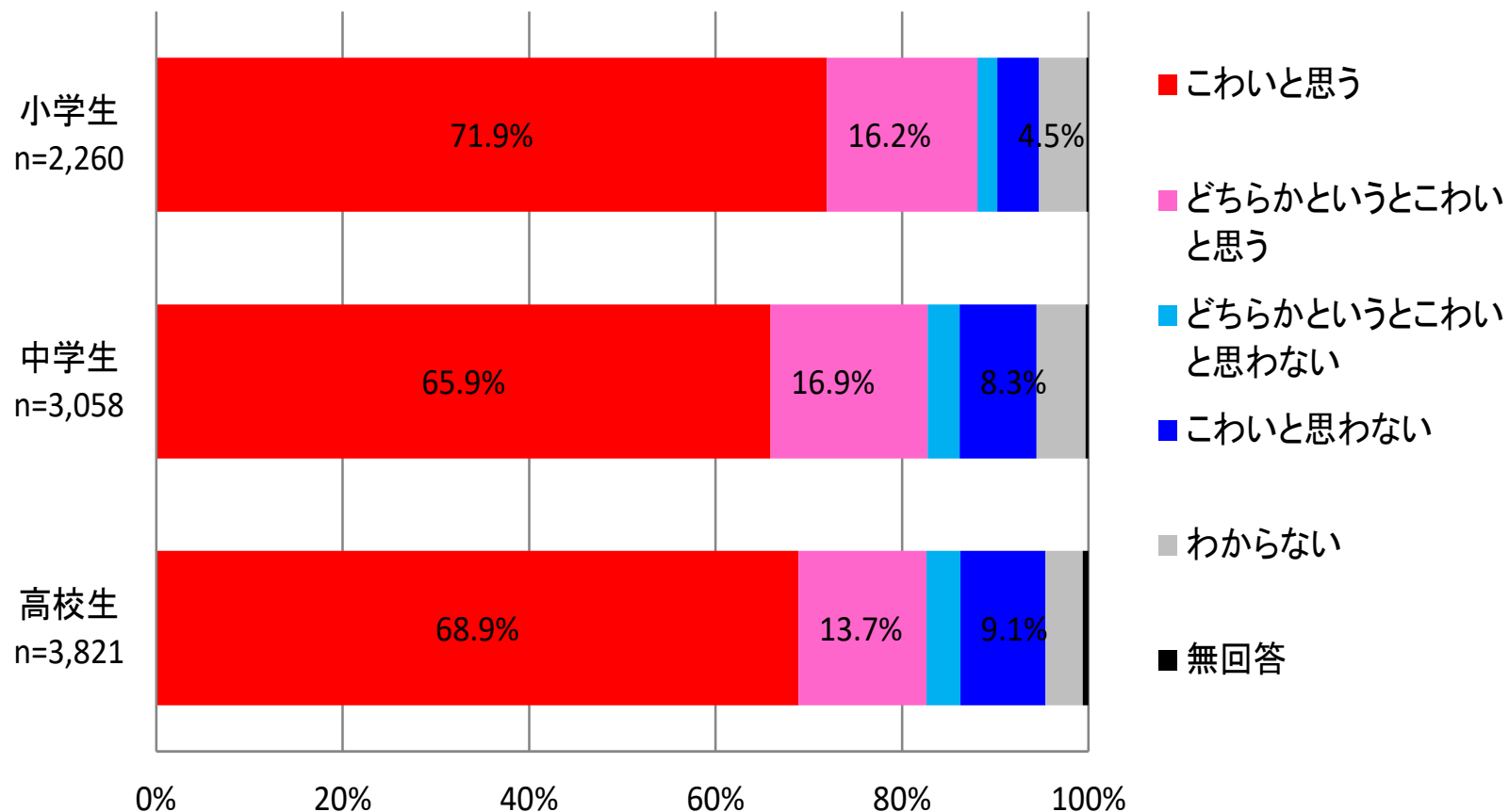
- 「受ける時間がないから」・・・47.4%
 - 「がんであると分かるのが怖いから」・・・36.2%
 - 「費用がかかり経済的にも負担になるから」
・・・35.4%
 - 「健康状態に自信があり、必要性を感じないから」
・・・34.5%
- (複数回答, 上位4項目)

がんに対する意識 (内閣府、2016)

「こわいと思う」とする者の割合・・・72.3%

(「どちらかといえばこわいと思う」29.9%+「こわいと思う」42.4%)

あなたは、「がん」についてどのような印象をもっていますか。



(Ueda et.al, 2014)

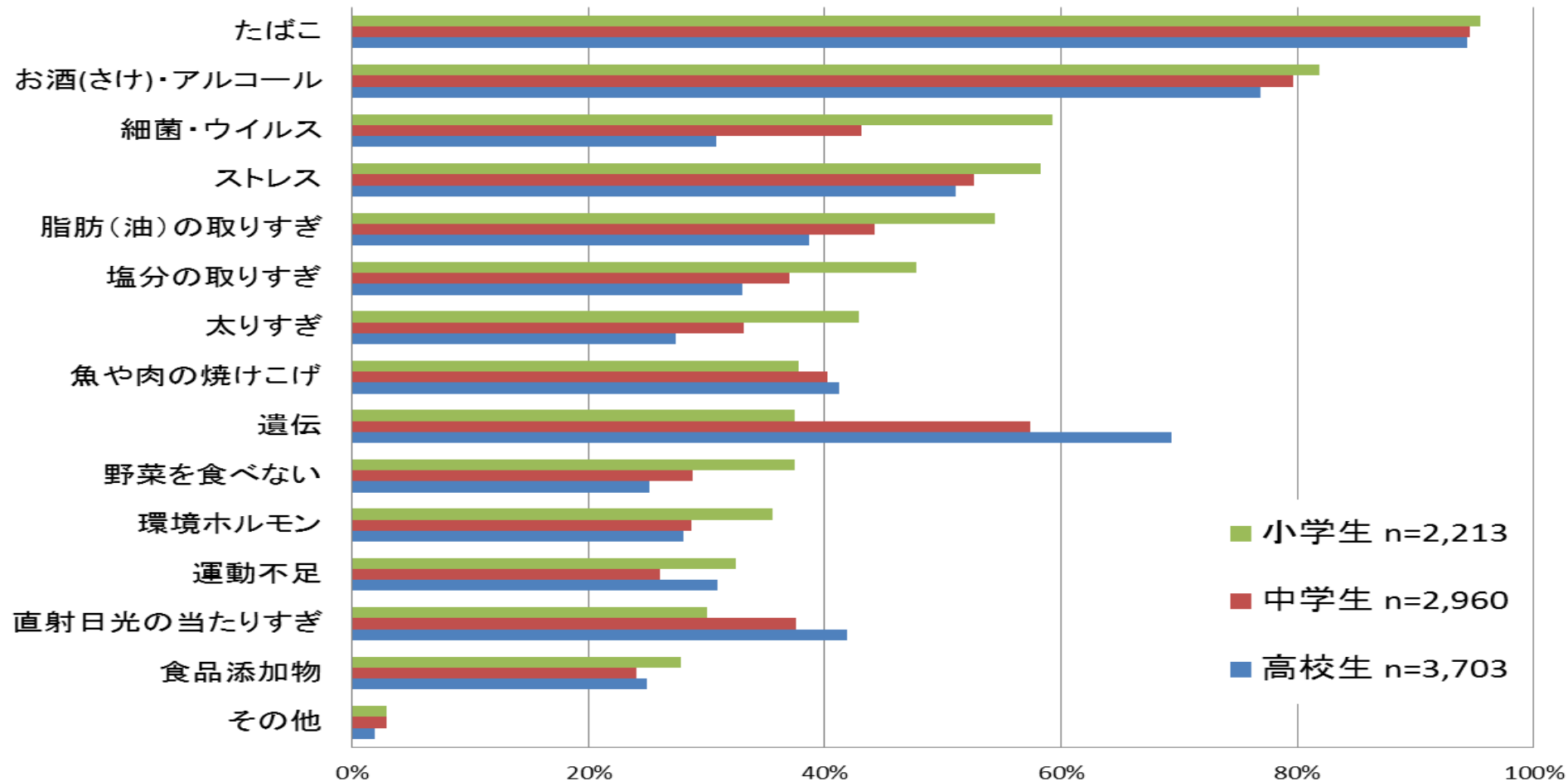
- 小学生・中学生・高校生のがんに対する意識（怖いと思う・どちらかといえば怖いと思う）は80%以上

がんに対する意識（内閣府、2016）

「怖いと思う」とする者の割合・・・72.3%

（「どちらかといえば怖いと思う」29.9%＋「怖いと思う」42.4%）

「がん」はどのような原因でなると思いますか。(複数選択可)



(Ueda et.al, 2014)

- がんの原因についての知識は、たばこについては高いが、細菌・ウイルス（特に高校生で）、食事、運動不足などについては低い
- また、こういったことががん患者に対する誤解や偏見につながっているとの指摘もある

がん対策推進基本計画（第2期）

2012年6月閣議決定

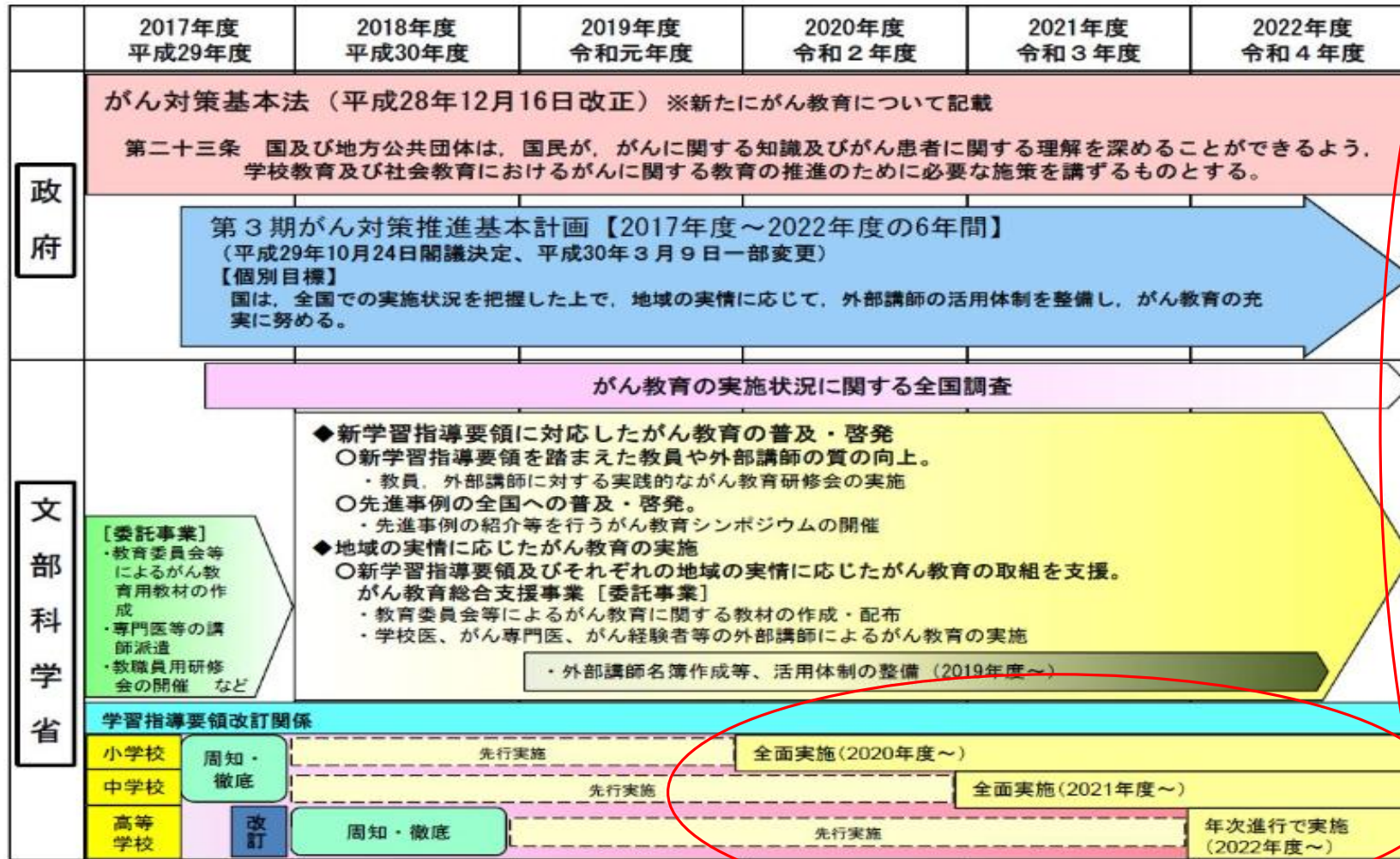
「子どもに対しては、健康と命の大切さについて学び、自ら健康を適切に管理し、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識を持つよう教育することを目指し、5年以内に、学校での教育のあり方を含め、健康教育全体の中でがん教育をどのようにするべきか検討し、検討結果に基づく教育活動の実施を目標とする。」

○「がん教育」に関する政府と文部科学省のスケジュール(案)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
政府	がん対策推進基本計画(平成24年6月策定)【平成24年度～平成28年度までの5年間】 ○がんの教育・普及啓発 5年以内に、学校での教育の在り方を含め、健康教育全体の中で「がん教育」をどのようにすべきか検討し、検討結果に基づく教育活動の実施を目標とする				
		政府成長戦略での「がん教育」の位置付け			
文部科学省		「がんの教育に関する検討委員会」 日本学校保健会主催 (文部科学省補助金) ○有識者からなる検討会を設置し学校における「がん教育」の在り方について検討	「がん教育」の在り方に関する検討会 文部科学省主催 ○1年目 ・「がん教育」の基本方針について検討 ※フレームワークの検討 ○2年目 ・「がん教育」に必要な教材等の開発 ・外部人材の活用方法等について検討 ○3年目 ・「がん教育」に必要な教材等の修正 ・外部人材の活用方法等について検討 ・報告書の作成 ※「がん教育」推進のための準備期間		
			○モデル事業の実施 期待される成果 ・教育委員会等によるがんの教育用教材の作成 ・専門医等の講師派遣 ・教職員用研修会の開催 など ○1年目 希望地域において、事業を実施。 ○2年目 基本方針を基に1年目の実施地域を中心に、地域を絞って実施。 ○3年目 事業の課題の改善、教材等を活用して実施。 学習指導要領改訂の必要性について検討		

文部科学省「がん教育」の在り方に関する検討会配布資料より

がん教育に関する政府と文部科学省のスケジュール



医師やがん経験者等を外部講師として活用し、
がん教育のさらなる充実を図る

文部科学省「がん教育」の在り方に関する検討会配布資料を一部改変

がん教育の手引き



©群馬県 くんまちゃん

群馬県教育委員会

監修：群馬県がん教育に関する協議会

（令和4年3月）

（令和8年2月一部改訂）

学校におけるがん教育の目標

文部科学省「学校におけるがん教育の在り方について」、2015より

①がんについて正しく理解することができるようにする

がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・検診等について関心をもち、正しい知識を身に付け、適切に対処できる実践力を育成する。また、がんを通じて様々な病気についても理解を深め、健康の保持増進に資する。

②健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする

がんについて学ぶことや、がんと向き合う人々と触れ合うことを通じて、自他の健康と命の大切さに気付き、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度を育成する。

黒澤明「生きる」



小児がんの子どもたちへの教師の理解や友達の励ましが大きな支えになる
一方で、不用意な言葉や態度がいじめや差別にもつながる（中川原 章）



がんの疾病概念、予防方法、検診の意義を正しく理解し、がんを予防する能力や態度を高め、がんに対するいたずらな不安や偏見を払拭する。

また、人間尊重の精神（やソーシャルインクルージョンの考え方）に基づき、がんやがんと向き合う人々について学ぶことによって、自他の健康といのちの大切さを知り、自己のあり方や生き方を考える態度を育成する。（植田、2016）

学校におけるがん教育の内容

文部科学省「学校におけるがん教育の在り方について」、2015 より

- 1) がんとは（がんの要因等）
- 2) がんの種類とその経過
- 3) 我が国のがんの状況
- 4) がんの予防
- 5) がんの早期発見・がん検診
- 6) がんの治療法
- 7) がん治療における緩和ケア
- 8) がん患者の生活の質
- 9) がん患者への理解と共生

指導者・教育課程の時間と「がん教育」の内容

(植田、2016)

- 1) がんとは（がんの要因等） 2) がんの種類とその経過等 3) 我が国のがんの状況
4) がんの予防 5) がんの早期発見・がん検診

1)～5) まず教師が保健教育の時間での充実を図る

- 6) がんの治療法（手術、放射線、抗がん剤） 7) がん治療における緩和ケア

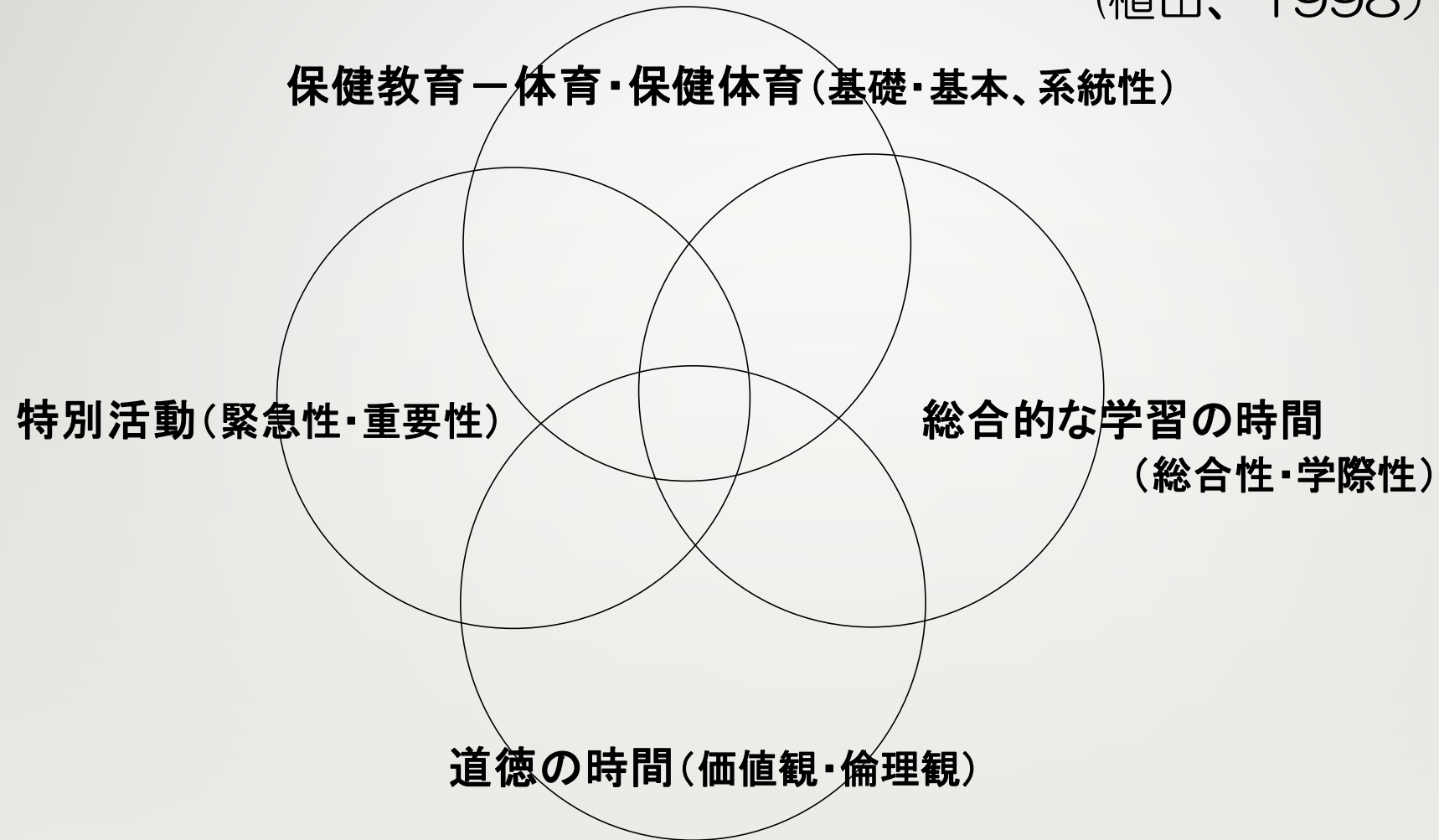
6)～7) 基本的な内容については、教師が保健教育（中高） で行うことを検討し、その実際や最新情報などは特別 活動で医療関係者などの外部講師を積極的に活用

- 8) がん患者の生活の質 9) がん患者への理解と共生

8)～9) 高校では保健教育で一部を教師が行い、小中では 道徳の時間、また小学校から高校までの特別活動で、 教師に加え、医療関係者やがん経験者などの外部講師 を積極的に活用

学校健康教育における連携・特徴

(植田、1998)



外部講師を活用した授業例

「がん教育の手引き 別冊 ～外部講師を積極的に活用したがん教育～」
(2021年長野県教育委員会:手引き作成アドバイザー植田誠治)より

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/hokenko/hoken/hoken/gankyoikutebiki.html>

(小学校)

4 授業の計画 (3時間扱い)

教科等	学習指導要領に基づいた学習内容	講師＜評価＞ 等
体育 (1時間)	〔第3学年及び第4学年〕 内容 (2) 体の発育・発達 (ウ) 体をよりよく発育・発達させるには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であること。 ＜ねらい＞ 体の発育・発達によい運動、バランスのとれた食事、適切な休養及び睡眠などが必要であることを理解する。	学級単位 (教科担任) ＜知識＞ 観察・学習カード
道徳 (1時間)	〔第3学年及び第4学年〕 D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること 【(18) 生命の尊さ】 教材「電池が切れるまで」 ＜ねらい＞ 教科書教材を用いて、生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすることについて考え合う。	学級単位 がん教育の手引き P20～P27 参照
特別活動 (1時間) 本時	学級活動 (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 ＜ねらい＞ がん経験者の方のお話をもとに、「命の大切さ」や「健康を守るためにしていきたいこと」を考え合うことを通して、自分の健康を保持増進しようとする気持ちをもつとともに、今の自分にできることを考え、実践する態度を育てる。	学級単位 外部講師：がん経験者 ＜思考・判断・表現＞ 観察・学習カード

児童が主体的に自分の健康づくりを考えていくために養護教諭が行っている保健指導に加え、このように保健や道徳、特別活動をはじめとした教科等横断的な取組も考えられます。

5 講師と事前打ち合わせのポイント

- ・前時と本時の主な授業の流れや授業概要を伝える。
※講師を依頼した理由や学校におけるがん教育の取組の状況なども含めて
- ・役割分担について決めておく（下写真参照）。
- ・事前にアンケートをとってあれば、その概要などを簡潔に伝える。また、配慮しなければならない児童がいれば、事前に担当（担任、養護教諭等）から講師へ伝える。
- ・児童の質問がある場合はあらかじめまとめて伝える。

講師が見ていない前時の流れを丁寧に伝えましょう

前時は「命の大切さ」を改めて自覚する、「命を大切にしたい」という思いをもつことをねらいとして学び、本時の「健康の保持増進のために努力しよう」という気持ちをもつことにつなげていくという意図を外部講師に伝える。



前時と本時の主な内容

◎前時について：道徳の時間に「電池が切れるまで」を使って学習

<ねらい> 命ある限り精一杯生きようとする宮越由貴奈さんの姿を通して、生命の尊さを知り、生命あるものを大切にする心情を育てる。

◎本時について：特別活動 学級活動（2）

<ねらい> 小口さんの経験談や「健康を守るためにしていきたいこと」をグループで話し合ったことをもとに、「自分はしていきたいか」を考えることを通して、自分の健康を保持増進のため自分に合った解決方法を決める。

がん教育の手引き
P20～P27 参照

役割分担

担任は、外部講師の話を聞きながら、ねらいに沿った大事な部分を板書する。

外部講師と授業をつくる
担任→外部講師の話をまとめる
外部講師→スケッチブックで説明



授業のねらいに沿って、
どのように外部講師を活用するか決めましょう。
～外部講師の活用例～
＜導入＞

子どもの質問に答える

＜展開＞

ご自身の経験を語る

＜終末＞

子ども達へのメッセージ

4 授業の計画（4時間扱い）

教科等	学習指導要領に基づいた学習内容	講師＜評価＞等
保健体育 （2時間）	事前アンケート 健康な生活と疾患の予防 （ウ）生活習慣病などの予防 ＜ねらい＞ がんは、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることや早期発見するためにがん検診などが有効であることを理解する。	学級単位（教科担任） ※養護教諭との連携 ＜知識＞ 観察・学習カード
特別活動 （1時間） 本時	学級活動（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 （エ）心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 ＜ねらい＞ がんの予防や生活習慣とのつながりについて理解し、がんについて一方的に話を聞くのではなく、がんを自分事として考えるために専門家に疑問に感じていることやさらに知りたいことを意欲的に質問したり、自分の考えを書いたりしている。	3学年全員 教科担任 外部講師 （医師、看護師、薬剤師） ＜主体的に学習に取り組む態度＞ 観察・学習カード
道徳 （1時間）	D「主として生命や自然、崇高なもののとかかわりに関すること」 【19 生命の尊さ】 ＜ねらい＞ 外部講師（専門家）とのやりとりを通して、自他の命を尊重すると共に健康に生きることへの意欲を高める。	学級単位（教科担任）

5 講師と事前打ち合わせのポイント

- ・事前アンケートの結果を医師に送り、生徒の実態把握をした上で打ち合わせをする。
- ・学校側が伝えたいこと、病院側が伝えたいことを共通理解した上で計画を立てる。
※中学生の場合は科学的な根拠を基に理解できるようにする。
- ・学年単位で、複数の外部講師が授業にかかわるので、質問の形式や時間配分等について共通理解しておく。
- ・生徒が「何を知りたいのか」、「何を聴きたいのか」という目的意識をもってグループ活動ができるようにする。質問の形式や時間配分も確認しておく。
- ・がん教育を通して願う子どもたちの学びの姿として「いのちの学習」計画案（次のページ図参照）を共有しておく。また、学校保健計画、健康教育年間計画及びそれに準ずる計画等あれば、参考資料として渡しておく。
- ・最も重要なことは学校の都合でゲストティーチャー的な役割を依頼するのではなく、共に授業を創りあげていくといった学校側の姿勢である。

（中学校）



がん専門医

竹内 信道さん

伊那中央病院 腫瘍内科 医師

地域がん診療連携拠点病院のがん専門医として地域の中学校からの依頼を受け、がんの治療に携わる薬剤師・看護師の皆さんと共に、生徒からの質問に直接答え、がんの予防や生活習慣とのつながりについて伝えた。

4 授業の計画（2年次10時間扱い）

教科等	学習指導要領に基づいた学習内容	講師＜評価＞ 等
1年次 保健体育 (2時間)	(1) 現代社会と健康 (ウ) 生活習慣病などの予防と回復 ＜ねらい＞ 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることを理解する。	学級単位（教科担任） ＜知識＞ 学習カード
2年次 特別活動 ホームルーム活動 (1時間)	ホームルーム活動（2） 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 オ 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立 ＜ねらい＞ 節度ある健全な生活を送るなど現在及び生涯にわたって心身の健康の保持増進を図ることを理解する。 保健講話「がんについて知り、学び、伝えること」	学校単位 外部講師による保健講話 ・事前アンケートにより、生徒の実態や学校の対応（配慮点）について伝えておく（養護教諭まとめ）
保健体育 (9時間) 本時 9時間扱い中 第2時	(3) 生涯を通じる健康 イ 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。 ＜ねらい＞ 外部講師の保健講話や保健の授業で学んだことを生かし、生涯を通じる健康課題、医療制度など探究的な学びの中で「がん」をキーワードとして取り上げて、将来予想される立場から自らの問いに対して考え、解決方法を考えることができる。 例えば、「実体験 現在の気持ち」「がんとのように向き合うか」「今後必要となる技能習得」 ※第2時における内容やねらいです。	学級単位（教科担任） ＜思考・判断・表現＞ 学習カード・プレゼンツール

（高等学校その1）



がん専門医

小泉 知展さん

信州大学医学部包括的がん治療学 教授

大学の医学部で、がん専門の若手医師の育成や診療・研究活動を行うかたわら、長野県がん教育推進会議のアドバイザーや県内の学校での講演活動等、がん教育の普及に努めている。

今回は、生徒の進路指導の内容も含めて講演を行った。

教科等	学習指導要領に基づいた学習内容	講師＜評価＞ 等
保健体育 (1時間)	【高等学校学習指導要領】 (4) 健康を支える環境づくり ア 健康を支える環境づくりについて理解を深めること (ウ) 健康に関する環境づくりと社会参加 <ねらい> 自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であることについて理解できる。	学級単位（教科担任）
保健体育 (1時間) 本時	・ 堂畑先生からがんが発生する仕組み、がんの予防、検診、治療等の話を聞く。 ・ ケーススタディ「がん患者と歩む」 <ねらい> がん患者の治療中、治療後の「生活の質」を大切にすることをもち、ディスカッションを通して、健康に関する環境づくりやその人らしく生きるために何が必要か、自分や家族、ケースの対象者の視点に立てて考えることができる。	学級単位 外部講師との TT による授業（がん専門医、看護師、薬剤師） <思考・判断・表現> 観察・学習カード

5 講師と事前打ち合わせのポイント



- ・ 生徒の実態、事前アンケートから分かるがんについての認識を外部講師と情報共有する。
- ・ 授業で考えたことを生活につなげていけるようにしたいという学校のニーズを伝える。
- ・ 高校生から社会（地域や家族）に伝えられる活動は何か。どんなことができるかを考えてもらいたいという外部講師の思いや考えを聞く。

<ケーススタディ「がん患者と歩む」の確認>

4つのケースの中から自分の指定されたケースについて、色々な視点（人、もの、タイミングなど）から考えられるように促す。

<グループディスカッションの進め方の確認>

- ① グループであらかじめ司会者、書記、発表者を決める。
- ② それぞれ事前学習で考えてきたことを基にディスカッションを行う。
- ③ グループ内の意見を付箋に記載し、模造紙に貼ってまとめる。
- ④ 発表する。

（高等学校その2）



がん専門医

堂畑 雄一さん

佐久総合病院佐久医療センター腫瘍内科医師

地域がん診療連携拠点病院のがん専門医であり、がん教育外部講師としても活動をしている。

今回は、がんの発生の仕組みや予防・検診等の講義やケースの対象者の視点で考えるグループワークで助言をした。

<授業の感想>

- ・ 絶対にがんにならない方法はないけれど、がんになりにくくすることはできることが分かりました。その方法は、だれにもできることだったので、まずは家族に教えて、どんどん情報を広げていき、がんになる人、がんによって亡くなる人を減らしていけたらいいなと思いました。グループの話し合いでは、もし家族ががんになったら、自分は治療を受けてほしいと思うけど、がんになった人の思いを尊重しなければならないと思いました。
- ・ がんは怖い病気だということは知っていたけど、2分の1の確率でがんになる人がいるということを知って、びっくりしました。治療や検査は、早い方が絶対にいいと思うけど、本人の意思も大切にしないといけないと思いました。今日のグループワークで、私は早く治療することが一番だと思っていましたが、友達のことを聞いて本人の意思を大切にということを言っていて、確かに納得することがありました。今日の授業のことをこれからの意思決定に役立たせていきたいです。
- ・ グループワークで、「病院に行かせる」、「Tさんの意見を尊重する」など、全然違う意見がいろいろ出たり、自分では考えもしなかった意見が出たりして楽しかった。来てくれた先生が言ったとおり、自分たちが正しい情報を広めて、地域などのがんに対する思いが活性化すれば、少しはがんになる人が減ると思うし、そうなればうれしい。

がんに対するこわさの払拭

— 「いたずらにこわがる」から「正しくこわがる」へ
そして、そのための基礎的・基本的理解を—

- がんについての印象で、こわいあるいはどちらかといえばこわいと回答した割合は、小学生・中学生・高校生とも8割を超えており、このうちこわいと回答した者は約7割
- その一方で、がんの原因について、たばこを回答する者は極めて高いものの、食事、運動不足、細菌・ウイルスなどについては、高校生でも3～4割程度

がんについての（保健的な）基礎的・基本的理解

参考）エイズ教育の教訓



©群馬県 ぐんまちゃん

群馬県教育委員会

監修：群馬県がん教育に関する協議会

（令和4年3月）

（令和8年2月一部改訂）

5 学習指導要領における位置付け

～学習指導要領解説における「がん」に関する記載部分～

【小学校 第6学年 小学校学習指導要領解説抜粋 教科：第9節 体育】

（3）病気の予防

【解説】

（イ）生活行動が主な要因となって起こる病気の予防

生活行動が主な要因となって起こる病気として、心臓や脳の血管が硬くなったり、つまったりする病気、むし歯や歯ぐきの病気などを適宜取り上げ、（略）健康により生活習慣を身に付ける必要があることを理解できるようにする。

（エ）喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

⑦ 喫煙については、（略）受動喫煙により周囲の人々の健康にも影響を及ぼすことを理解できるようにする。また、喫煙を長い間続けるとがんや心臓病などの病気にかかりやすくなるなどの影響があることについても触れるようにする。

【中学校 第2学年 中学校学習指導要領解説抜粋 教科：第7節 保健体育】

（1）健康な生活と疾病の予防

【解説】

（イ）生活習慣病などの予防

⑦ 生活習慣病の予防

（略）その際、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足、喫煙、過度の飲酒などの不適切な生活行動を若い年代から続けることによって、やせや肥満などを引き起こしたり、また、心臓や脳などの血管で動脈硬化が引き起こされたりすることや、歯肉に炎症等が起きたり歯を支える組織が損傷したりすることなど、様々な生活習慣病のリスクが高まることを理解できるようにする。

生活習慣病を予防するには、適度な運動を定期的に行うこと、毎日の食事における量や頻度、栄養素のバランスを整えること、喫煙や過度の飲酒をしないこと、口腔の衛生を保つことなどの生活習慣を身に付けることが有効であることを理解できるようにする。

④ がんの予防

がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることを理解できるようにする。

また、がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることを理解できるようにする。

なお、⑦、④の内容と関連させて、健康診断やがん検診などで早期に異常を発見することなどを取り上げ、疾病の回復についても触れるように配慮するものとする。

- 1）文章の語尾に注目…基本的
内容（理解できるようにする）
とそれ以外の触れる内容
- 2）小学校・中学校・高校の
系統性
- 3）生活習慣病などの「など」に
留意
- 4）内容の取扱い（中学校・高校）
「また、がんについても取り扱
うものとする。」に留意

【高等学校 入学年次又はその次の年次 高等学校学習指導要領解説抜粋

教科：第6節 保健体育】

(1) 現代社会と健康

【解説】

ア 現代社会と健康について理解を深めること

(ウ) 生活習慣病などの予防と回復

がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることを**理解できるようにする。**

その際、がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解できるようにする。がんの回復においては、手術療法、化学療法（抗がん剤など）、放射療法などの治療法があること、患者や周囲の人々の生活の質を保つことや緩和ケアが重要であることについて**適宜ふれるようにする。**

また、生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることを**理解できるようにする。**

なお、日常生活にスポーツを計画的に取り入れることは生活習慣病などの予防と回復に有効であること。また、運動や食事について性差による将来の健康課題があることについて取り上げるよう配慮する。

がん教育におけるカリキュラム・マネジメント

特別活動

自己の成長及び健康安全・・・現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや望ましい食習慣の形成

特別の教科 道徳

生命の尊さ・・・生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること

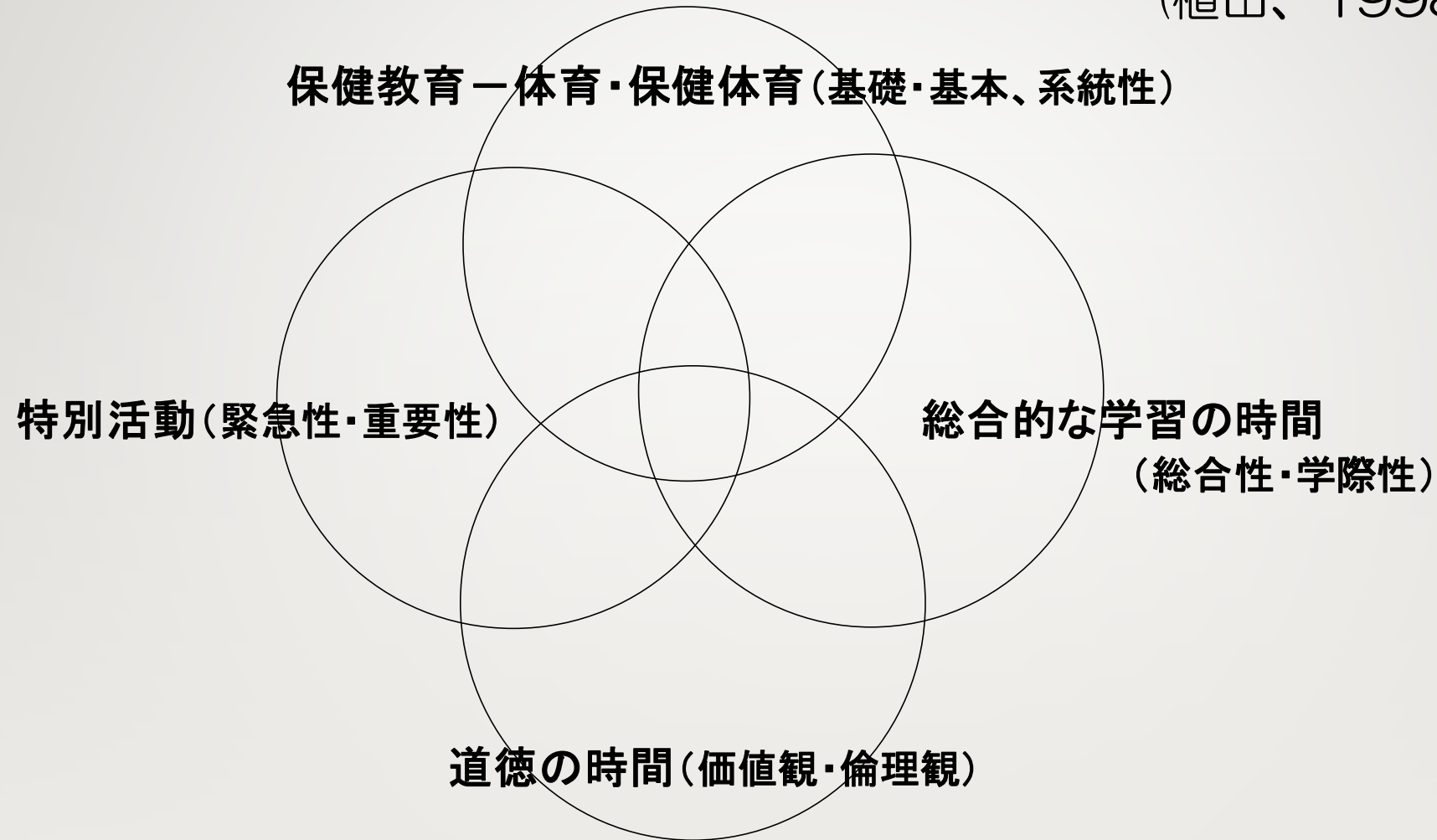
総合的な学習の時間

探究課題の例・・・福祉・健康

カリキュラム・マネジメントしていく必要性

学校健康教育における連携・特徴

(植田、1998)



中学校・高等学校版
がん教育プログラム

補助教材

本プログラムは健康教育の一環として、
がんについての正しい理解と、
がん患者やその家族などのがんに向き合う人々に対する
共感的な理解を深めることを通して、
自他の健康と命の大切さについて学び、
共に生きる社会づくりに寄与する資質・能力の育成を
図ることを目的としています。

本教材を活用するにあたっての留意事項

命についての授業になります。生徒の家庭状況や心理面についての配慮が必要です。
本はP.6の留意事項を、必ずご確認ください。

平成29年3月

株式会社キャリアリンク

(文部科学省委託事業)

令和3年3月改訂

https://www.mext.go.jp/content/20210310-mxt_kenshoku-100000621_2.pdf

本プログラム作成にあたっては、作成委員会を設置し、アドバイスおよび監修いただきました。

作成委員会メンバー一覧（五十音順）

植田 誠治氏（聖心女子大学 文学部教育学科教授）

塚崎 好起氏（岡山県教育庁 保健体育課 健康・安全教育班 指導主事）

中川 恵一氏（東京大学医学部附属病院 放射線治療部門長）

林 和彦氏（東京女子医科大学 がんセンター長 化学療法・緩和ケア科教授）

広野 光子氏（がんを明るく前向きに語る・金つなぎの会（自助努力の患者会）代表、ジャーナリスト）

提供教材

全9モジュール分の教材を用意しています。学校での授業のねらいに合わせて自由にアレンジしてご活用ください。

スライド教材



全9モジュール分のスライド
を用意しています。

補助教材



各モジュールのねらい・授業進行の
方法などを紹介しています。

映像教材（小学生向け）

オプション



小学生向けには映像教材を揃えています。
必要に応じてご活用ください。（詳細P.18）

プログラム概要

本プログラムは文部科学省「がん教育推進のための教材」にもとづき、9つのモジュールにて学習いただける内容となっています。また、中学校・高等学校で活用いただきやすいよう、1モジュール15分程度で構成。学校のねらいに合わせ、必要なモジュールを選択し、組合わせてご活用ください。

※プログラムは教員が活用できるように作成していますが、学校の実情に合わせ、学校医やがんの専門医、がん患者など、外部講師の参加・協力による連携授業にてより学習が深まります。（P.4を参照ください）

対象学年 中学校・高等学校

関連教科 保健、道徳、総合的な学習の時間、特別活動 など

いずれのモジュールも15分程度で実施いただける内容となっています。

	モジュールタイトル	概要	ページ
1	がんという病気	がんとは体の中で異常細胞が増え続ける病気である。がんは一部遺伝要因はあるが、 <u>誤った生活習慣によりなる危険性が増す</u> 。がんになる危険性をどのような生活をすればよいかを考える。	P.7
2	日本のがんの現状	がんは日本人の死因の第1位で、2人に1人はがんになる可能性がある。がんは細胞分裂の際に発生していくため、年齢にともないがんになる人が増え、 <u>誰でもなりうる病気</u> である。	P.8
3	がんの発生と進行	<u>がんは発生から自覚症状が出るまでの期間が長い</u> ため、早期に発見するためには、症状がなくても検診を受けることが重要である。	P.9
4	がんの予防	<u>がんになる危険性を減らすための工夫</u> としては、たばこを吸わない、ほかの人のたばこの煙を避ける、バランスのとれた食事や適度な運動、定期的ながん検診が重要である。	P.10
		がんになった場合、早期がんに関しては約95%以上が、早期に発見	

4	がんの予防	がんになる危険性を減らすための工夫としては、たばこを吸わない、ほかの人のたばこの煙を避ける、バランスのとれた食事や適度な運動、定期的ながん検診が重要である。	P.10
5	検診の意味	がんになった場合、早期がんに関しては約95%が治る。早期に発見するためには、 <u>症状がなくても定期的に検診を受けることが重要</u> である。	P.11
6	がんの治療で大切なこと	がん治療には3つの柱（手術、放射線、化学）があり、がんの種類と進行度に応じて単独や、合わせて行われているが、 <u>医師と相談しながら主体的に選択することが重要</u> である。	P.12
7	がん治療の支援	がんの支援には、病気に伴う体と心の痛みを和らげる緩和ケアがあり、 <u>終末期だけでなく、がんと診断された時から受けるものである。</u>	P.13
8	がん患者のおもい	がんの治療は、単に病気を治すだけでなく、治療中、治療後の <u>‘生活の質’を大切にし、がんになってもその人らしく、充実した生き方ができることが重要</u> である。	P.14
9	がん患者とともに生きる社会	がん患者は増加しているが、生存率が高まり、治る人、社会に復帰する人、病気を抱えながらも自分らしく生きる人が増えてきている。そのような人たちが社会生活を行っていく中で、 <u>がん患者への偏見をなくし、お互いに関わり合い、共に暮らししていくことが大切</u> である。	P.15

NEXT 100 YEARS

子どもたちの健やかな成長を支えていく



学校保健の情報が集約された
ポータルサイトはこちら



学校保健の情報が集約された
ポータルサイトはこちら

教材コンテンツ

子どもの未来を考える人のための

学校保健

研修会情報

教材コンテンツ

Google カスタム検索



研修会案内

日本学校保健会刊行物(デジタルアーカイブ)

学校等欠席者・感染症情報システム

特集

コラム

イベントカレンダー

テーマ別関連ページ



子どもたちの健やかな成長を支えていく

研修会案内 研修会や講習会、セミナー等のご案内

一覧へ

学校等欠席者・感染症情報システム
マップビュー

オンデマンド配信／養護教諭向け



オンデマンド配信



オンデマンド配信



現地開催 2



テーマ別関連ページ

■保健管理

[ホーム](#) > [学校で使える保健コンテンツ](#)

学校で使える保健コンテンツ

[▶ 授業づくりに活かせるコンテンツ](#)[▶ そのまま授業で使えるコンテンツ](#)[▶ 養護教諭が使えるコンテンツ](#)[▶ 学校配布用コンテンツ](#)[▶ 協力企業による提供コンテンツ](#)[▶ 授業づくりに活かせるコンテンツ](#)[「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた保健の授業\(児童生徒の健康管理・健康づくり推進動画\)](#) 

学習指導要領に基づき、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた保健教育の授業の進め方の理解促進、指導者育成のためのモデル授業動画を配信しています。

[▶ コンテンツはこちら](#)[学校等欠席者・感染症情報システム](#)
[マップビュー](#) 

テーマ別関連ページ

■保健管理

- ▶ [感染症](#)
- ▶ [アレルギー疾患](#)
- ▶ [心臓・腎臓・呼吸器など](#)
- ▶ [歯・口\(歯科保健\)](#)
- ▶ [眼](#)
- ▶ [耳・鼻・のど](#)
- ▶ [皮膚](#)
- ▶ [骨・関節\(運動器\)](#)
- ▶ [性](#)
- ▶ [メンタルヘルス\(精神保健\)](#)
- ▶ [学校環境衛生](#)
- ▶ [成長曲線](#)
- ▶ [その他](#)

■保健教育

- ▶ [保健教育](#)
- ▶ [歯・口の健康教育](#)
- ▶ [食育](#)

公益財団法人 日本学校保健会

「児童生徒の健康管理・健康づくり推進」委員会

研修会案内

日本学校保健会刊行物（デジタルアーカイブ）

学校等欠席者・感染症情報システム

特集

コラム

イベントカレ

[ホーム](#) > 児童生徒の健康管理・健康づくり推進動画

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた保健教育の授業

児童生徒の健康管理・健康づくり推進動画

令和3年度動画

令和4年度動画

令和5年度動画

令和6年度動画

NEW

令和7年度動画

*内容別で検索する方はこちらから

保健（小・中・高）

特別活動（小・中）

I 学習指導要領に基づく保健教育の授業づくり

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課 健康教育調査官

スポーツ庁政策課 教科調査官 横嶋 剛

II 実践授業

1. 特別活動（学級活動）(2) ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

題材「心の健康」

小学校第6学年 浦添市立仲西小学校 根間 成美

2. 「健康な生活と疾病の予防」（ウ）生活習慣病などの予防（がん）

中学校第2学年 松山市立久米中学校（授業協力校） 愛媛県教育委員会保健体育課 指導主事 大野 小百合

3. 特別活動（学級活動）(2) ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応

題材「性情報への対処」

中学校第2学年 川崎市立橘中学校 網谷 英大

4. 「現代社会と健康」（イ）現代の感染症とその予防

高等学校第1学年 大分県立大分雄城台高等学校 釘宮 多加也

中学校 保健体育科 (保健分野)
単元名 「生活習慣病などの予防 (がん)」 (第2学年)

1 単元の目標

- (1) 生活習慣病の予防、及びがんの予防について理解できるようにする。
- (2) 生活習慣病などの予防に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択するとともに、それらを伝えることができるようにする。
- (3) 生活習慣病などの予防について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより予防できることや、生活習慣病を予防するには、適度な運動定期的に行うこと、毎日の食事における量や頻度、栄養素のバランスを整えること、喫煙や過度の飲酒をしないこと、口腔の衛生を保つことなどの生活習慣を身に付けることが有効であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	①生活習慣病の予防における事柄や情報などについて、原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連付けたりして自他の課題を発見するとともに、習得した知識を活用し、生活習慣病を予防するための方法を選択している。	①生活習慣病などの予防について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。
②がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	②がんの予防について、疾病等にかかるリスクを軽減し健康を保持増進する方法を考えると同時に選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。	
③がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることが有効であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		

3 指導と評価の計画 (4時間扱い)

	主な学習内容・学習活動	知	思	態	評価方法
1	○生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起こることについて理解する。 ○生活習慣が健康に及ぼす影響について理解する。	①			観察 ワークシート
2	○生活習慣病は、適切な対策を講ずることにより予防できることについて理解する。 ○自他の生活を振り返って生活習慣病の要因を発見するとともに、予防するための適切な方法を選択する。		①		観察 ワークシート
③	○がんに対するイメージを共有する。 ○外部講師の話聞き、がんについて理解する。 ○がんに関する基本的な知識について、個人で調べたり、グループで話し合ったりすることにより理解を深める。	②			観察 ワークシート
4	○がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることが有効であることについて理解する。 ○健康診断やがん検診などによる早期発見や疾病の回復について考える。 ○本単元のまとめをする。	③	②	①	観察 ワークシート

※第4時の「知識・技能」については、ワークシートを用いて授業後に評価することとした。

※主体的に学習に取り組む態度の評価については、内容のまとまりを通して総括することとした。

4 本時の指導案 (3/4時間)

(1) 本時の目標

○がんに関する基本的な知識について理解することができるようにする。

(2) 展開

段階	学習内容と学習活動	学習形態	教師の指導・支援 (◆評価規準と方法)
導入	1 前時の復習を行う。 ・生活習慣病の要因と予防について振り返る。 ・日本人の死因について確認する。	全体 全体	○生活習慣病の要因や予防と、日本人の死因について確認する。
展開	2 本時のねらいを確認する。 【学習課題】 がんの仕組みや要因について正しく理解しよう。 3 がんに対するイメージを共有する。 ・アンケート結果から、がんに対する自他のイメージを共有する。 4 がんに関するクイズに挑戦する。 ・個人のタブレット端末に入っている択一問題を解く。 問1: がんの原因 問2: 日本人ががんに罹患する割合 問3: 日本人に多いがんの種類 問4: 生活習慣とがんの関係 ・クイズの解答について、説明を聞く。	個人 全体 個人 全体	○現在のがんへのイメージを確認する。 ○がんに関する基本的な知識について理解できるようにする。 ・日本におけるがんの現状 ・日本人の罹患の特徴 ・生活習慣とがんの関係 ○事前打合せにおいて話の中心となる内容を確認する。 ・告知された時の葛藤 ・闘病の様子 ・家族への思い ・現在の生活
まとめ	5 がん経験者の話を聞き、調べ学習への意欲を高める。 6 がんについて詳しく調べる。 【発問】 がんについて疑問に思ったことや詳しく知りたいことを調べてみよう。 ・クイズの中から、詳しく調べてみたい項目を選択する。 ・個人がタブレット端末を使って調べたことをワークシートにまとめる。 ・外部講師に質問をしたり、個人が調べたりしたことを班で集約しながら、さらに調べる内容を広げ、「大切な人に伝えるつもりで」ワークシートにまとめる。 ・班でまとめた内容を全体で発表する。	個人 班 全体	○思いや考えを深め、調べ学習への意欲を高めることができるようにする。 ○がんについて関心を持ち、がん経験者に質問するなど主体的に取り組めるようにする。 ○調べ学習の様子を主体的に学習に取り組む態度の評価として蓄積する。 ◆知識・技能② (学習活動6) 【観察・ワークシート】
	7 本時の学習のまとめをする。 【発問】 今日の授業を通して、考えが変化したことや分かったことをまとめてみよう。 ・本時の学習を通して、思考の変化や分かったことをまとめ、全体で発表する。	個人 全体	○がんに対する思考の変化に気付くことができるようにする。 ○がんを正しく理解することの大切さについて伝える。
	8 本時の振り返りを行う。 ・外部講師の感想や教師の話を聞く。 ・次時の学習の見通しをもつ。	全体	○次時はがんの予防と検診等について学習することを知らせる。

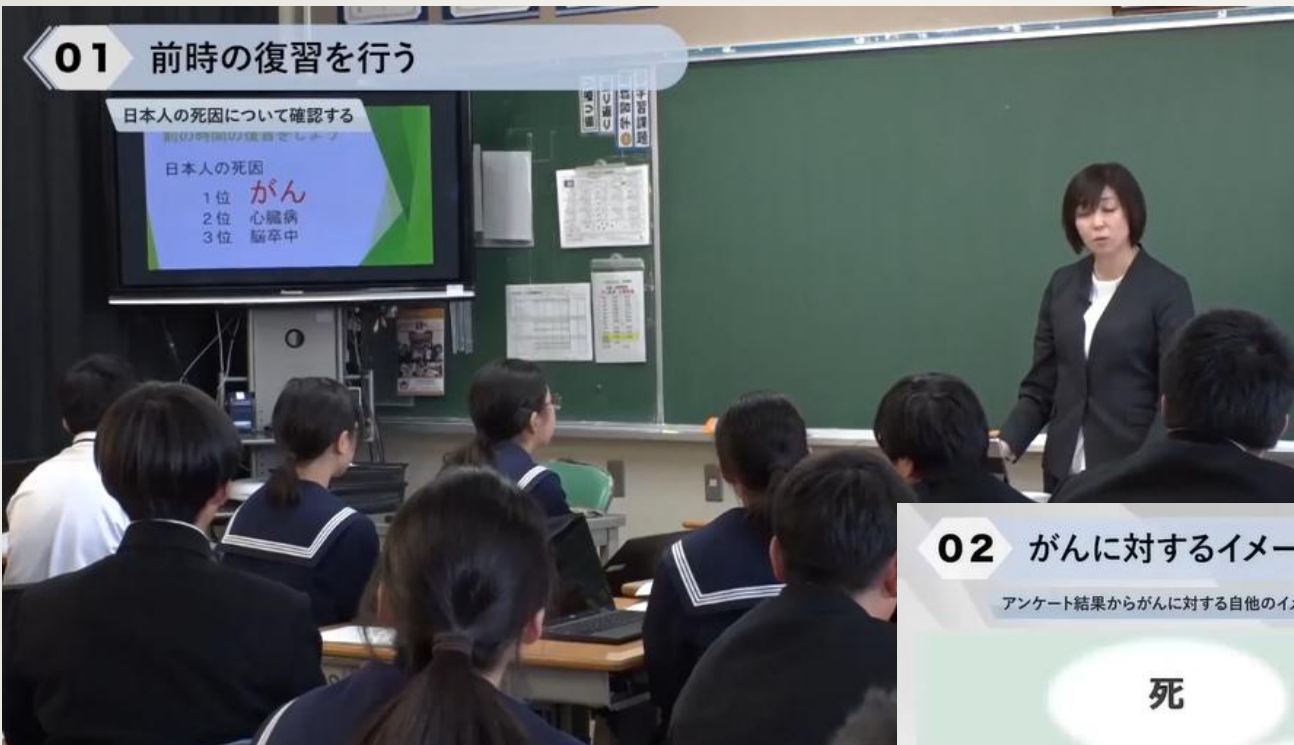
01 前時の復習を行う

日本人の死因について確認する

前時の時間的経過をレビュー

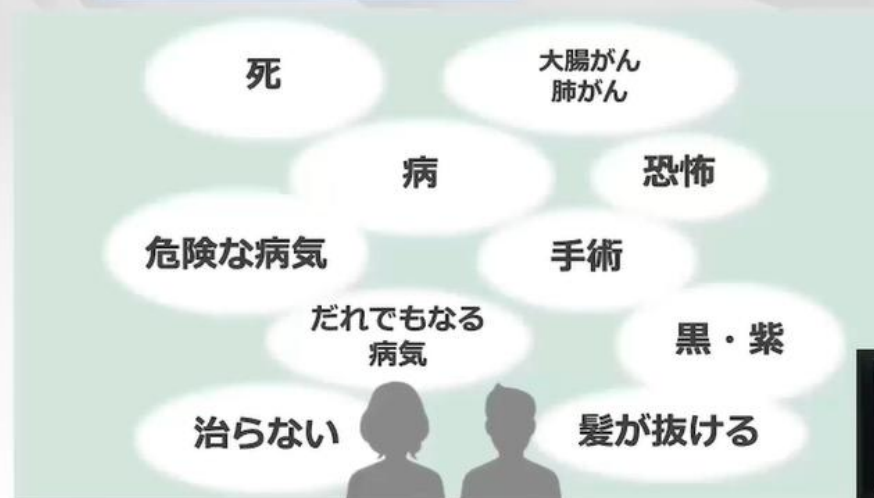
日本人の死因

- 1位 **がん**
- 2位 心臓病
- 3位 脳卒中



02 がんに対するイメージを共有する

アンケート結果からがんに対する自他のイメージを共有する



03 がんに関するクイズに挑戦する

クイズの回答について、説明を聞く

がんの原因

女性の場合

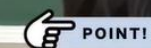


(「科学的根拠に基づくがんリスク評価とがん予防ガイドライン策定に関する研究」(Inoue, M. et al.: Ann Oncol., 2012; 23(5): 1362-9) を基に国立がん研究センターがん情報サービスが作成) 9



04

がん経験者の話を聞き、
調べ学習への意欲を高める

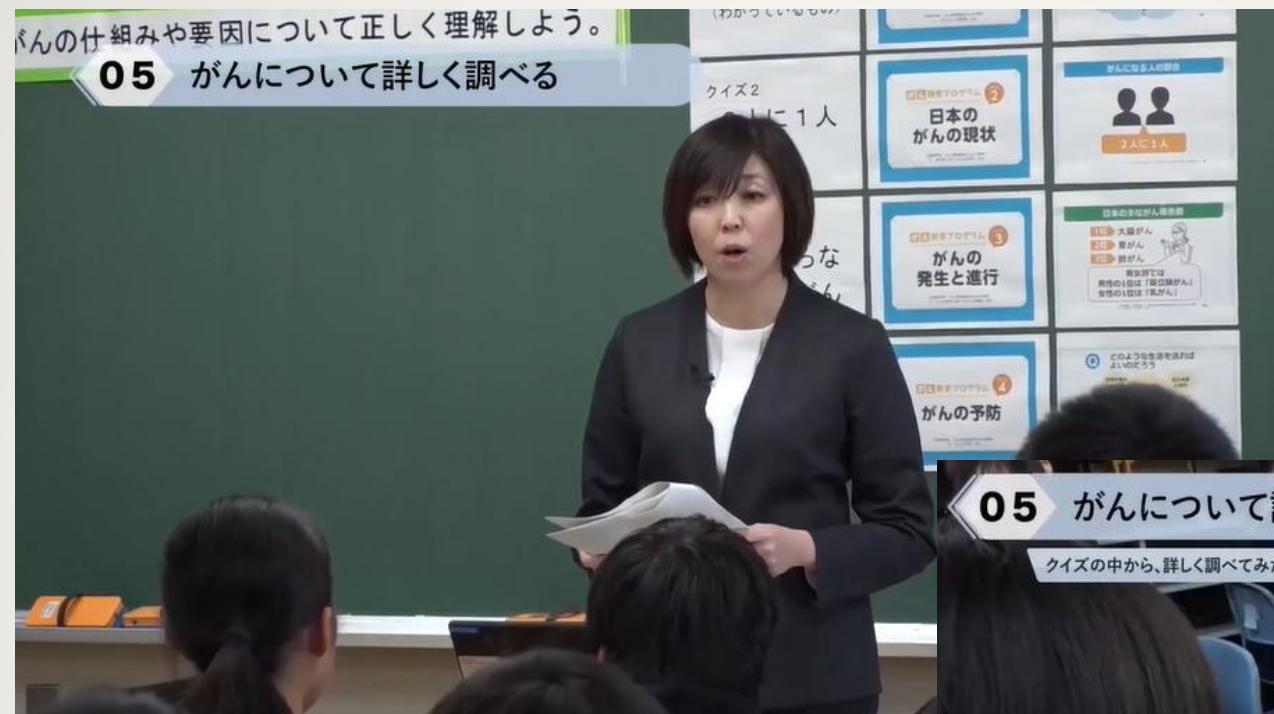


がん経験者の話を聞き、調べ学習への意欲を高める。

04

がん経験者の話を聞き、
調べ学習への意欲を高める





05 がんについて詳しく調べる

がんという病気
2年 組 氏名

【今日の目標】がんの仕組みや原因について詳しく理解しよう。

① がんについて調べてみよう。

モジュール番号
自分で調べてみよう

グループでまとめてみよう ～ 大切な人に伝えるつもりで ～

メモ 伝えてみよう

② 今日の授業を通して、考えが変化したことや分かったことをまとめてみよう。

例) 授業の前は○○だと感じていましたが、今は○○だと分かりました。(1～3行程度)



POINT!

メモを取りながら仲間の発表を聞く。

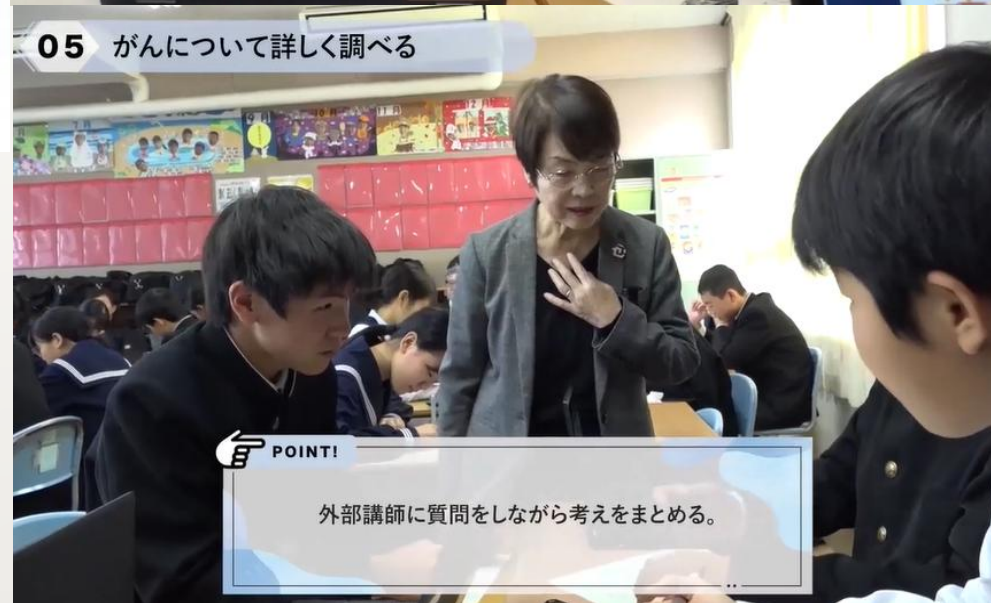
05 がんについて詳しく調べる



POINT!

伝え合いながら思いや考えを深める。

05 がんについて詳しく調べる



POINT!

外部講師に質問をしながら考えをまとめる。

06 本時の学習のまとめをする

がんという病気
2年 組 氏名
【今日の目標】 がんの仕組みや原因について詳しく理解しよう。

① がんについて調べてみよう。

モジュール学習
自分で調べてみよう

グループでまとめてみよう ～ 大切な人に伝えるつもりで ～

メモ	伝えてみよう

② 今日の授業を通して、考えが変化したことや分かったことをまとめてみよう。

例：授業の前は○○だと思っていたけど、今は○○だと分かりました。（※感想も可）



POINT!

授業を通して、考えが変化したことや分かったことをまとめる。

06 本時の学習のまとめをする



道徳教材「命を見つめて」

ねらい：

がん患者に対して肯定的な印象を持ち、公平、公正に接しようとする意欲を高める。

ねらいとする価値について：

がん患者の少女やその仲間の生き方や言葉に触れることで、がん患者についての印象を変え、がん患者と公平、公正に接しようとする意欲を高める。

命を見つめて

猿渡 瞳

写真・文章は

植田誠治編著 『学校におけるがん教育の考え方・進め方』（2018）より



みなさん、みなさんは本当の幸せって何だと思いますか。実は、幸せが私たちの一番身近にある事を病気になったおかげで知ることができました。それは、地位でも、名誉でも、お金でもなく「今、生きている」という事なんです。

私は小学六年生の時に骨肉腫という骨のガンが発見され約一年半に及ぶ闘病生活を送りました。この時医者に、病気に負ければ命がないと言われ、右足も太ももから切断しなければならないと厳しい宣告を受けました。初めは、とてもショックでしたが、必ず勝ってみせると決意し希望だけを胸に真っ向から病気と闘って来ました。その結果、病気に打ち勝ち右足も手術はしましたが残す事ができたのです。しかし、この闘病生活の間に一緒に病気と闘ってきた十五人

の大切な仲間が次から次に亡くなっていきました。小さな赤ちゃんから、おじちゃんおばちゃんまで年齢も病気も様々です。厳しい治療とあらゆる検査の連続で心も体もボロボロになりながら、私達は生き続ける為に必死に闘ってきました。しかし、あまりにも現実には厳しくみんな一瞬にして亡くなっていかれ生き続ける事がこれほど困難で、これ程偉大なものかという事を思い知らされました。

みんないつの日か、元気になっている自分を思い描きながらどんなに苦しくても目標に向かって明るく元気にがんばっていました。それなのに生き続ける事が出来なくて、どれ程悔しかった事でしょう。私がはっきり感じたのは、病気と闘っている人たちが誰よりも一番輝いていたという事です。そして健康な体で学校に通ったり、家族や友達とあたり前の様に毎日を過ごせるという事が、どれほど幸せな事かという事です。例え、どんなに困難な壁にぶつかって悩んだり、苦しんだりしたとしても

命さえあれば必ず前に進んで行けるんです。生きたくても生きられなかったたくさんの仲間が命をかけて教えてくれた大切なメッセージを、世界中の人々に伝えて行く事が私の使命だと思っています。

みなさん、私達人間はいつどうなるかなんて誰にも分からないんです。だからこそ、一日一日がとても大切なんです。病気になったおかげで生きていく上で一番大切な事を知る事が出来ました。今では心から病気に感謝しています。私は自分の使命を果たす為、亡くなったみんなの分まで精一杯生きていきます。みなさんも、今生きている事に感謝して悔いのない人生を送って下さい。

*一骨肉腫は 骨の悪性腫瘍（がん）で、若い人に多く、生活習慣などが原因のがんではない。

※ 本稿は、猿渡瞳さんの作文「命を見つめて」を一部抜粋して作成しました。





いのちと向き合う がんを学ぼう

文部科学省選定

監修：植田 誠治（聖心女子大学教授） バリアフリー字幕版選択可

価格

各巻18,000円+税（学校、公共図書館向け）
各巻36,000円+税（視聴覚ライブラリー向け）

対象

● 小学校高学年～中学校～高等学校
● 各種教育機関

教科

保健体育、特別活動、
道徳、総合学習

がんを通していのちの大切さを考える映像教材

学校におけるがん教育は、2012年の第2期がん対策基本計画から盛り込まれ、2020年度に小学校、21年度中学校、22年度に高校でがん教育を本格実施することが明示されました。保健体育のほか、道徳、特別活動、総合学習などで扱うことが想定されています。目標として「がんの予防、早期発見・検診などへの正しい知識を身につける」「がんと向き合う人々と触れ合うことを通じて自他の健康と命の大切さ、生き方を考える」などとしています。

本シリーズでは、がんについての正しい理解と共感的な理解を深めることを通して、自他の健康といのちの大切さを学んでいきます。がんとはどのような病気なのか、早期発見とがん検診、がんの治療法、がん患者への理解について学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図り、また、がんを通していのちの大切さを考える映像教材です。

① がんってなんだろう？

18V0013S



がん検診をご存知でしょうか？そしてそのがん検診はどんな人が受けていると思いますか？

がんは現代日本においては非常に身近な病気であり、一人ひとりががんに対して正しい知識を持ち、対峙していくことが求められています。

この巻ではがん研究センターに取材し、専門家の話を聞き、がんを取り巻く社会の状況、海外との比較も交えながら、様々な観点からがんの基礎知識を学びます。また、普段は見ることのできない実際のがん検診の場面も収録し、児童生徒たちのがん検診の必要性への意識を高めます。（約18分）

② がんを通して《命》を考える

18V0014S



身近な人ががんにかかることは誰にでもあり得ることであり、また、自身ががんにかかることもあるかもしれません。家族ががんになったとき、あなたはどのように接することが出来るでしょうか。自分ががんにかかったとき、あなたは何を思い、どう行動していくでしょうか。

この巻では小児がん当事者とその家族の声を聞き、児童生徒たちに「いのち」についての問いを投げかけます。映像を視聴した後に本テーマについて考え、議論することで、児童生徒たちが「いのち」の大切さを感じ、肯定的、能動的に生きていくための多くのヒントを得ることが出来ます。（約25分）

③ がんと共に生きる社会

18V0015S



近年はがん闘病を公表して社会で活躍する人が増えてきています。がんは重大な病気ではありますが、必ずしも命に関わるわけではありません。2人に1人ががんになる現代において、今必要とされているのは、がんと共に生きていける社会であり、そのためには、正しい知識を身につけるだけではなく、病気に対する差別や偏見を払拭していくことも重要です。実際にはがんに関心ながら社会生活を送る当事者の方の声に耳を傾け、そうした社会を作るために何が必要かを考えます。また、国のがん対策や、学校教育におけるがん教育の取組についても紹介します。（約18分）



長谷川一男さんのエピソード(5分24秒)



がんと分かったときは、もう頭が真っ白ですね。当時、小学校2年生の息子と幼稚園年長の娘がいたので、子どもにどう伝えればいいのか…。4日間一睡もしなかったのを覚えています。

自分が治療に向き合うきっかけとなったのは、一人のお医者さんの「可能性はゼロじゃない。ゼロでないんだったら戦うべきじゃないか。」という言葉。それから、子どもたち、妻のためにも、納得いくまで先生と話し合って治療法を決め、治療を進めていきました。

私が今、一番大切にしているのは、私が経験したことを、がんを患う人たちに共有していくことです。

みんなで話し合う場をつくって、病気に関する勉強会を開いています。そこに、先生を呼んで、相談しながら正しい情報を受け取り、情報発信をしています。みんなで励まし合う場をつくっているのです。

みなさんには、「病気になっても自分の人生なので後悔しないように生きる。」ということを強く伝えたいです。自分の人生を大切に、後悔しない、そういう生き方をしてほしいと思っています。

倉本久恵さんのエピソード(5分03秒)



がんと分かったのは検診でした。とてもショックで、残してしまう家族への心配が1番大きかったです。でも、毎日のようにお見舞いに来てくれた家族の支えと励ましで、治療をがんばることができました。

今はパン屋で仕事をしています。毎日朝はすごく早いし、パン屋の仕事はすごく力を使う肉体労働ですが、やっぱり自分がやりたかった仕事に就けて本当に良かったと、毎日充実しています。

今、大切にしていることは、家族のためにバランスのよい食事を作って、家族が健康であるように努めることです。今まで心配をかけた分、家族には健康でいてほしいと考えています。毎日家族と一緒に笑っている時がとっても幸せです。

健康であれば自分の夢も叶います。バランスのいい食事をとって、規則正しい生活をして、毎日過ごしてください。そして、家族を大切にしてほしいと思います。

- 小児がんの当事者あるいは小児がんの既往のある児童生徒がいる場合
- 家族にがん患者がいる児童生徒、家族をがんで亡くした児童生徒がいる場合
- クラスにがん患者や、がんの既往のある児童生徒がいる場合
 - • 生活習慣が主な原因とならないがんもある、原因のわからない場合もある
 - • このような児童生徒がいるという前提で授業を行う
 - • 養護教諭と授業担当者の連携、プライバシーを配慮しながら、授業内容について事前に伝え相談する（むしろ学校全体にがんについての理解が広がってほしいと前向きな報告もある）

○その児童生徒が授業を受けてよかった、こういう授業があってよかったと思える授業を

配慮に関する調査結果より

- まず配慮として、児童生徒の意思を尊重すること、そして保護者への内容の通知の工夫が必要である
- 一方で、学校におけるがん教育について、特に中学校・高等学校においては、教育課程上位置づけも明確であり、また、がんの当事者や経験者にとって不利益になったりするものではないことや、当事者等からも特別な配慮の必要なしとする場合もある
- ただし、学校におけるがん教育が一定のまとまりとして教えられるようになってそれほど時間が経っていないことや、外部講師の指導も多く行われていてより深く学ぶ機会も増えていることから、それぞれの事情に応じて臨機応変にはなるものの、慎重な配慮は必要と考えられる
- がん教育は集団指導が基本になることが多く、それをフォローアップする個別の指導や支援が行われることも有効であり、その際に用いることができる発達段階に応じた資料や教材の開発が必要である

- がんの専門性の高さに鑑みて、広く専門機関等との連携を進める。地域や学校の実情に応じて、学校医をはじめとする医師や看護師、保健師、がん経験者等の外部講師等の参加・協力を推進することが期待されている

- • • 教育課程の特徴（保健学習、特別活動、総合的な学習の時間、道徳の時間等）を踏まえる
- • • 学校でどこまで学習しているかの把握して行う
- • • 学校が年間計画を立てる段階から参画して連携を図る

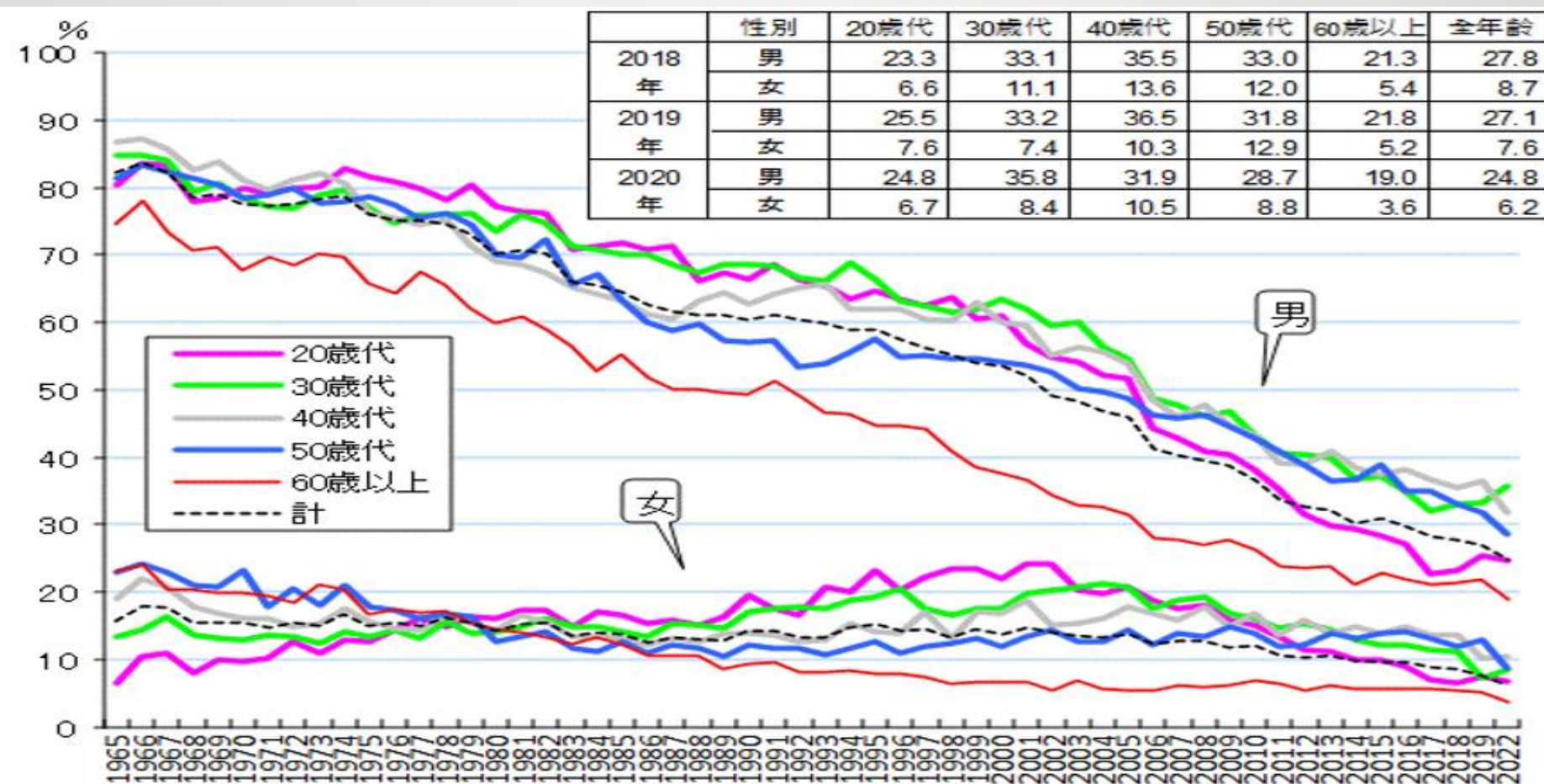
がん検診の意識と行動を変える

ー保健教育の社会貢献の可能性ー

植田誠治他：日本の児童生徒のがんについての意識の実態（2014）より

- がん検診を受けられる年齢になったら受けようと思うと回答した中学生・高校生は7割にみたくない
- また、がん検診はどのような人が受けるものだと思うかに対して、健康な人を選択した中学生・高校生は6割程度にとどまっている
- 一方、将来自分ががんになると思うかという問いには、中学生・高校生の1～2割がそう思うと回答したにすぎない

喫煙率の変遷



(注)「全国たばこ喫煙者率調査」は2018年調査をもって終了。2019,2022年は「国民・健康栄養調査」の「現在習慣的に喫煙している者の割合」を使用したもので厳密には接続していない。
 (資料) 日本専売公社・日本たばこ産業株式会社「全国たばこ喫煙者率調査」、厚生労働省「国民健康・栄養調査」

参考文献

- 1) 植田誠治編著, 物部博文・杉崎弘周著『学校におけるがん教育の考え方・進め方』大修館書店, 2018
- 2) 長野県教育委員会:「がん教育の手引き 別冊 ～外部講師を積極的に活用したがん教育～」, 2021
- 3) 植田誠治監修DVD『いのちと向き合うがんを学ぼう』(①がんってなんだろう? ②がんを通して《命》を考える ③がんと共に生きる社会) サン・エデュケーショナル, 2020
- 4) 文部科学省: 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編, 東洋館出版社, 2017
- 5) 文部科学省: 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編, 東山書房, 2018
- 6) 文部科学省: 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編, 東山書房, 2018
- 7) 文部科学省: 中学校・高等学校版 がん教育プログラム補助教材, キャリアリンク, 2021
https://www.mext.go.jp/content/20210310-mxt_kenshoku-100000621_2.pdf
- 8) (公財) 日本学校保健会 児童生徒の健康管理・健康づくり推進委員会:「主体的・対話的で深い学び」を目指した保健の授業・授業動画
[HTTPS://WWW.GAKKOHOKEN.JP/HEALTH-MANAGEMENT-AND-HEALTH-PROMOTION/2023](https://www.gakkohoken.jp/health-management-and-health-promotion/2023)
- 9) 文部科学省: 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編, 東洋館出版, 2018
- 10) 文部科学省: 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編, 東洋館出版, 2018